

「話のたねのテーブル」より

幹に実が着くジャボチカバ

鈴木邦彦

ブラジル南部が故郷だと言われるジャボチカバ(Jaboticaba)は、日本ではまだよく知られていないが、白く香りが良い可愛い花やブドウの巨峰のような美味しい果実が、幹に鈴なりに着く珍しい植物である。

種まきや挿し木で簡単に殖やせるが、幹がある程度の太さにならないければ花芽が着かないので、実生ではすぐには果実を楽しめない。挿し木でも太めの穂木を使用するほうが早く花を着けるようになる。接ぎ木は簡単で、むしろ実生の台木に太い枝を接ぎ木するほうが得策であろう。ほとんどの場合、幹や太い枝の盲芽からつぼみを出す。1芽当たり数個の白くて4弁、中央に雌しべがあって、その周りにたくさんの雄しべが叢生する花を着ける。いっせいに咲くと、幹全体に花を貼り付けたような状態になる。果実は始めは緑色だが、熟すと光沢のある黒紫色の果実を鈴なりに着ける。熟した果実の中には1~2個の種子がある。収穫した果実は長く鮮度を保つことは難しいため、生で食べるかジャムなどに加工するとよい。



▲ブドウに似た果実が鈴なりに

種子は取り蒔きをするるとよく発芽する。多胚性でひとつの種子の中に数個の胚が形成される。挿し木は6月~7月頃、新しく出た枝の成長が止まり、葉が硬くなった頃に行く。枝を5節ほどの長さで切り、対生の葉は先の方の2節だけを残し、根元に近い方を取り除く。根元の節の下で切り返し、挿し穂にする。

大きくなった樹はマイナス1~2℃くらいまでは寒さに耐える。それよりも寒い地方では、鉢に植え、冬は家の中に入れる方がよい。

5月頃になると甘い香りの花が次々と咲き、開花後40~45日ほどで濃い紫色に熟す。一年中家の中に置いても生育するので、インテリア植物として鑑賞しながら育てると楽しい。

本稿は全国農村教育協会のホームページに掲載されたものを著者のご了解を得て再録しました。「話のたねのテーブル」は毎週2題ずつ更新しています。ぜひ、ごらん下さい。
<http://www.zennokyo.co.jp>

＜お詫びと訂正＞

植調誌第43巻第4号のP10上、図-7の説明文に誤植がありました。正しくは下記のとおりです。

- 誤→ 図-7 フルリドン (FL.300ppmw) を8月末に土壌混和处理 (5 cm) した圃場における *Orobancha minor* 種子の発芽率と生存率の変化. 発芽率は圃場から採取した種子をコンディショニング後ストリゴールを処理することにより調べた (C0=6/963haesら)。
- 正→ 図-7 フルリドン (FL.300ppmw) を8月末に土壌混和处理 (5 cm) した圃場における *Orobancha minor* 種子の発芽率と生存率の変化. 発芽率は圃場から採取した種子をコンディショニング後ストリゴールを処理することにより調べた (Chaesら)。

訂正してお詫びいたします。